

## 耐暑性に優れた夏秋系黄一輪ギク 「夏のきらめき」・「なつき愛」の特性と栽培技術



**夏のきらめき**

(2011年品種登録)



**なつき愛**

(2012年品種登録)  
(商標：夏のあゆみ)

愛知県農業総合試験場では、愛知県花き温室園芸組合連合会きく部会と共同で、夏季に黄色の花を咲かせる一輪ギク「夏のきらめき」と「なつき愛」(県花き連きく部会が「夏のあゆみ」で2011年に商標登録)を育成しました。両品種とも①高温・長日条件下でも開花が早く、②切り花の日持ち性に優れ、③無側枝性を有し、茎の伸長性が良いキクです。特に「夏のきらめき」は花が大きく、「なつき愛」は切り花の日持ちが良いといった特性があります。

## 特性比較

	夏のきらめき	なつき愛 (商標：夏のあゆみ)
花の大きさ、色	約13cm、明黄色	約11cm、明黄色
切り花の草姿	ボリューム感あり	立ち葉でスマート
生育	生育旺盛で茎の伸長性がよい 無側枝性がある	
電照打ち切り～ 開花までの日数	45日程度	45日～49日
日長管理	シェード不要 ややヤナギ芽多い	シェードが 望ましい
切り花日持ち 日数	良い 19日	とても良い 24日

# 「夏のきらめき」

## 主な特性

- 自然開花(季咲き)は6月上～中旬頃です。
- 花色は輝くような明黄色で、他の品種より大きな花が咲きます。
- 茎の伸長性が優れ、茎葉にボリューム感があります。
- 側枝(腋芽)の発生が少なく、芽かきが省力化できます。
- 早期発蕾によるヤナギ芽が発生しやすいです。
- 高温期には下葉枯れが発生しやすいです。



## 作付体系

- 6～8月の出荷に適しています。9月開花作付は奇形花が発生しやすく、あまり適していません。
- 早期発蕾防止のため、必ず摘心処理をします。

出荷時期	3月	4月	5月	6月	7月	8月	消灯時 茎長目安
6月中旬	◎×	▲		□			50cm
7月上旬	◎×	▲		□			45cm
8月上旬			◎×	▲		□	40～ 45cm

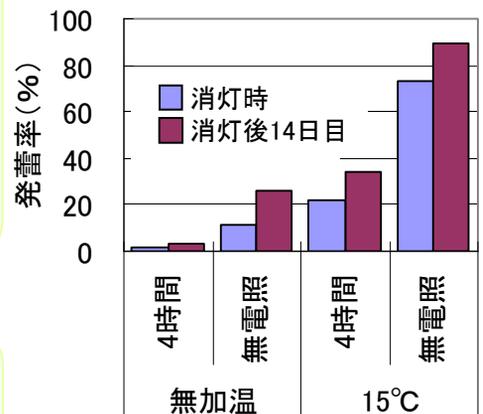
◎ 定植    × 摘心    ▲ 消灯    □ 収穫    ※消灯時茎長は摘心位置から茎頂までの長さ

## 親株育成

- 7～8月開花の切り下株を収穫後露地へ仮植して元親株とし、十分な低温に遭わせます。
- 元親株から発生した吸枝を1月頃に無加温ハウスへ親株として植え付けます。
- 春先以降は、ハウス内をあまり蒸し込まないようになるべく涼しい環境で管理します。
- 本圃での早期発蕾防止のため、親株床では4時間以上の深夜電照を行います。

## 栽植密度

- 定植本数は3.3㎡当たり65～75本とし、摘心により、株当たり2～3本仕立てとします。施設の立地条件や畝幅に合わせて調整します。
- あまり密植しすぎると下葉枯れが発生しやすく、茎が軟弱になるので注意が必要です。



親株の加温・電照の有無と消灯時・消灯後14日目の発蕾率  
(8月開花・摘心栽培)

## 日長操作

- 定植から消灯までの電照は深夜4～5時間行います。
- 短日処理(シェード)をしなくても開花はほとんど遅れません。

## 施肥・かん水

- 施肥量は慣行と同程度です。緩効性肥料や追肥主体の施肥設計が望ましいです。
- 活着後はかん水をやや控えめに管理し、根を深くまで張らせるようにします。消灯後は、土壤水分が過剰にならない程度に適宜かん水します。

## わい化剤処理

- 花首が伸長しやすいので摘蕾期にダミノジット剤を散布すると草姿のバランスが良くなります。

## 病害虫対策

- ハモグリバエの食害を受けやすいので注意して防除します。その他、アブラムシ、アザミウマ、ハダニ、白さび病等の発生に注意して、適期防除に心がけてください。

## 早期発蕾(ヤナギ芽)対策

- 1～3月の気温が比較的高い年は、3月末までに採穂をしてください。また、採穂が4月以降になる場合は、親株へ採穂前摘心時にエテホン剤を散布します。
- 本圃では、摘心～摘心後10日目くらいにエテホン剤を散布すると早期発蕾を抑えることができます。ただし、開花が少し遅れる場合があります。
- 消灯時までには草丈を伸ばしすぎないようにします。
- 極端に土壤を乾燥させないようにします。



ヤナギ芽

## 下葉枯れの発生原因と対策

- 高温・多湿な条件で発生しやすいと考えられます。
- 畝の内部で発生が多く、通路側ではあまり発生しません。
- 根張りが悪いと発生が多いのではないかと考えられます。
- 短期間で急激に症状が悪化するので、温度、湿度、日照などの急激な環境変化が引き金となっていると考えられます。
- 하우스内の通風・換気を良くし、高温多湿にならないように努めます。
- ベッド幅を狭くしたり、ベッド中央を広めに空けて植えるのが望ましいです。



下葉枯れ  
(奥の方が枯れている)

## 収穫・出荷

- 切り前が早い段階で収穫した切り花は蕾の花色が薄く、開花時の花径が小さくなってしまいます。
- 花色が出始めて、花卉が緩んできたら収穫しましょう。



夏のきらめき  
出荷時の  
蕾のようす

# 「なつき愛」(商標：夏のあゆみ)

## 主な特性

- 自然開花(季咲き)は6月下旬頃です。
- 花色は艶やかな明黄色で、花はやや小振りです。
- 6～9月開花作付では、到花日数が45～50日で安定しており、開花揃いもよいです。
- 茎の伸長性に優れています。節間が長く、茎葉のボリューム感はやや少なめです。
- 水揚げ・日持ちが特に良い品種です。
- 側枝(腋芽)の発生が少なく、芽かきが省力化できます。



## 作付体系

- 6～10月の出荷に対応できます。6月開花では低温遭遇により開花遅延等がみられますので、消灯後夜温は16℃以上に確保するように努めます。
- 6～9月開花作付では摘心栽培、無摘心栽培とも可能です。10月開花作付では摘心後不萌芽になりやすいため、無摘心栽培のほうが向いています。

出荷時期	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	消灯時 茎長目安
6月下旬	◎×	▲		□					50cm
7月上旬	◎×	▲		□					45cm
8月上旬		◎×	▲	□	~~~~~				40～45cm
9月中旬			◎×	▲	□	~~~~~			45cm
10月中旬				◎	▲	□			45cm

◎ 定植 × 摘心 ▲ 消灯 □ 収穫 ~~~~~ シェード ※消灯時茎長は摘心位置から茎頂までの長さ

## 親株育成

- 7～8月開花作付の切り下株を元親株として露地に仮植します。
- 6月開花作付の親株は、開花遅延防止のため11月下旬～12月上旬頃吸枝が見え始めたらハウス内に親株として定植します。その後は幼若性を獲得させないように夜温12～15℃で管理します。
- 7月開花作付以降の親株は「夏のきらめき」と同様に育成します。
- 一株当たりの採穂本数がやや少ないので、親株を多めに準備します(定植予定本数の12%程度)。
- 無側枝性があるので、高温時には萌芽数が減ります。

## 栽植密度

- 摘心栽培での定植本数は3.3㎡当たり65～75本とし株当たり2～3本に芽を整理して、3.3㎡当たり仕立て本数を150本とします。出荷規格M級を主体に出荷する場合は3.3㎡当たり180本程度でも可能です。無摘心栽培での定植本数は3.3㎡当たり150～180本です。

## 日長操作

- 定植から消灯まで深夜4時間の電照を行います。
- 8～9月開花では、消灯後は日長時間が13時間になるようにシェードを行います。無シェードでも開花しますが、開花の遅延やばらつきが起こります。



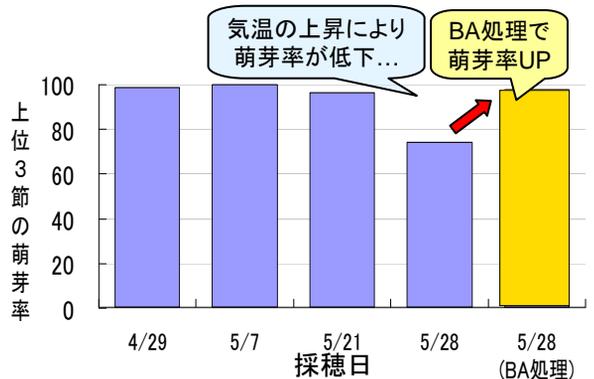
高温期に摘心した後の萌芽状態  
(上位節からの萌芽が減少)

## 再電照

- 総包形成前期～後期(消灯10日後頃)から4～5日間、3時間程度行うことで上位葉が大きくなります。ただし到花日数は5～6日遅れます。8～9月出荷では必要ありません。

## 不萌芽対策

- 高温期の摘心栽培では、不萌芽性が高いため必要茎数が確保できないことがあるため、念のため採穂した穂が腋芽を持っているか確認します。不萌芽対策としては5月中旬頃までに採穂して冷蔵するか、採穂前摘心時に親株へのBA(ベンジルアミノプリン)剤散布をします。



採穂時期・BA処理による萌芽率の違い  
※平成22年6月16日定植、23日摘心、7月12日調査

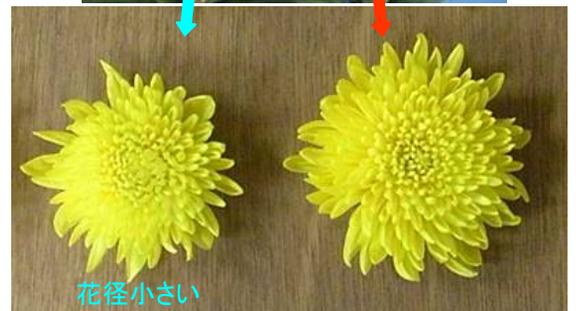
## 病虫害対策

- ハダニの発生は他の品種に比べてやや少なめですが、アブラムシ、アザミウマ、白さび病等その他の病虫害の発生にも注意して、適期防除に心がけてください。



## 収穫・出荷

- 切り前が早い段階で収穫した切り花は蕾の花色が薄く、開花時の花径が小さくなってしまいます。
- 花色が出始めて、花弁が緩んできたら収穫しましょう。



切り前の違いによる満開時の花の大きさの比較

## 栽培許諾

「夏のきらめき」「なつき愛」は、いずれも愛知県と愛知県花き温室園芸組合連合会きく部会が共同育成した種苗法に基づく登録品種であり、栽培には許諾契約が必要です。

問い合わせ先  
愛知県花き温室園芸組合連合会事務局  
(愛知県農林水産部園芸農産課内)  
電話 052-954-6419(ダイヤルイン)

「夏のきらめき」栽培ほ場



「なつき愛(夏のあゆみ)」栽培ほ場



編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線323 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815 <http://www.pref.aichi.jp/nososi>

問い合わせ 東三河農業研究所花きグループ TEL 0532-61-6293

〒440-0833 豊橋市飯村町字高山11-48